

2025年度 授業コード: 81100800

授業科目	*助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)				実務家教員担当科目	○			
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期		
担当教員	前田 幸/山田 恵/新郷 朋香								
授業概要	分娩期の助産診断のためのフィジカルアセスメント及び産婦と家族の心理・社会的側面からケアに必要な知識を学修し、演習により安全・安楽をふまえた助産技術の習得する。 以上のことについて、実務家教員として臨床で助産師としての実務経験を有する教員が教授する。								
授業形態	対面授業			授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、Classroomを利用した自主学習支援を行う				
<b>学生が達成すべき行動目標</b>									
標準的レベル	1. 産婦のケアに必要な基礎的知識について説明できる。(DP1-1) 2. 産婦の健康状態を正常および正常からの逸脱について根拠に基づき説明できる。(DP2-1) 3. 産婦に必要なケアの習得において主体的に取り組むことができる。(DP3-1) 4. 倫理観をもち産婦のケアを安全・安楽に基づき実施できる。(DP2-2・3-2)								
理想的レベル	標準的レベル1~4の全てを達成したうえで、知識に関してはより詳細な説明ができる。技術・態度に関しては習得した知識を技術・態度に応用することができる。								
<b>評価方法・評価割合</b>									
	評価方法		評価割合(数値)			備考			
	試験		60			0			
	小テスト		15			0			
	レポート								
	発表(口頭、プレゼンテーション)		20			0			
	レポート外の提出物		5			0			
	その他		0						
<b>カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング</b>									
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	ナンバリング	MI21202J
<b>学習課題(予習・復習)</b>								1回の目安時間(時間)	
予習: 提示された事前学習を行う 母性看護学で学習した内容を見直しておく 復習: 該当部分をまとめる、自己練習を行う								1	
<b>授業計画</b>									
第1回	テーマ: 産婦の健康診査(前田幸) ・診察技術の概要と方法について解説する。 ・分娩経過における母子の健康診査に必要な処置や検査について解説する。								
第2回	テーマ: 分娩期の経過診断(1)(前田幸) ・分娩開始の診断と対応について解説する。 ・分娩の3要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。								

	<p>模型等を使いながら、グループにてディスカッションを行う。</p>
第3回	<p>テーマ：分娩期の経過診断（2）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩の3要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。</li> </ul>
第4回	<p>テーマ：分娩期の経過診断（3）（前田幸）</p> <p>演習①</p> <p>CTGの判読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を用いてCTGの判読演習を行う。</li> </ul>
第5回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（1）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩経過に沿った産婦及び家族の支援について解説する。</li> </ul>
第6回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（2）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>演習②</p> <p>CTGモニター装着、産痛緩和、呼吸法、内診、胎盤計測、出生直後の児の観察について演習を行う。</p> <p>第6回と第7回は連続して行う。</p>
第7回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（3）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>同上</p>
第8回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（1）（前田幸）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助法</li> </ul> <p>分娩の意義および原理、分娩介助技術の方法について解説する。</p>
第9回	<p>テーマ：テーマ：分娩期の助産技術（2）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>演習③</p> <p>分娩介助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助について解説を交えながらのデモンストレーションを行う。</li> <li>・産婦、直接介助者、間接介助者の役割を理解し演習を行う。</li> </ul>
第10回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（3）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩期に取り扱う記録について解説する。</li> </ul> <p>演習④</p> <p>パルトグラム・助産録の記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩期に扱う記録について実際にパルトグラム・助産録を記載しながら演習を行う。</li> </ul> <p>第10回と第11回は連続して行う。</p>
第11回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（4）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>同上</p>
第12回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（4）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>演習⑤</p> <p>分娩期のケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を用いて情報収集、アセスメントを行い、産婦の支援を実施する。情報やアセスメント、実施したケアについて記録を行う。</li> <li>・今後の分娩経過について予測し必要なケアを考える。</li> </ul>

	<p>・アセスメントやケアについて発表やディスカッションを行い、学びや気づきを共有し、レポートにまとめる。</p> <p>第12回と第13回は連続して行う。</p>
第13回	<p>テーマ：分娩期の産婦の支援（5）（前田幸、山田恵、新郷朋香）</p> <p>同上</p>
第14回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（6）（外部講師）</p> <p>・フリースタイル分娩の介助技術について解説する。</p> <p>第14回と第15回は連続して行う。</p>
第15回	<p>テーマ：分娩期の助産技術（7）（外部講師）</p> <p>演習⑥</p> <p>フリースタイル分娩介助</p> <p>・講師の助言をもとにフリースタイル分娩の介助について演習を行う。</p>
テキスト	<p>科学的根拠にもとづく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013 厚生労働科学研究妊娠出産ガイドライン班 金原出版株式会社</p> <p>エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2024 一般社団法人日本助産学会ガイドライン委員会 日本助産学会</p> <p>助産業務ガイドライン 2024 日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会</p> <p>今日の助産 マタニティサイクルの助産診断 北川真理子他編 南江堂</p> <p>WHOの59か条お産のケア実践ガイド 戸田律子訳 農文協</p> <p>他、指定図書も参考にしてください、必要に応じて資料を配布します。</p>
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<p>小テスト、レポートや課題、演習に関するフィードバックは授業中もしくはClassroomにて行います。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>母性看護学に関する知識と看護技術について復習しておいてください。</p> <p>講義で得た知識や助産技術の方法を演習を通して実施します。そのため、知識はもちろん正しい技術の習得や助産師としての態度を身につけるために助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵと関連づけて学習し、予習・復習をして授業に臨んで下さい。</p> <p>技術の習得をするために、練習時間をとりますので各自、技術練習に励んでください。</p> <p>演習では、身だしなみを整えて臨み、模型などの教材は丁寧な取り扱いを心がけましょう。</p> <p>準備・後片付けも自主的に行いましょう。感染対策に留意した行動をとりましょう。</p>
学生へのメッセージ・コメント	